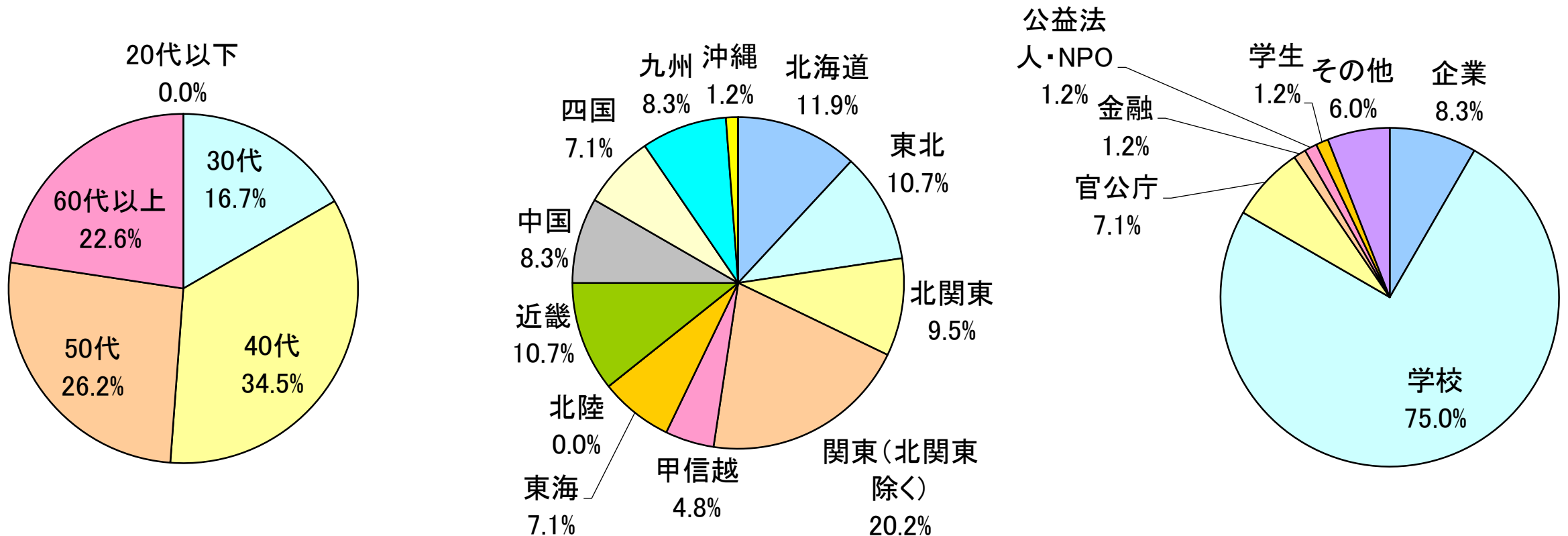


産学連携学会  
会員満足度向上のための  
アンケート調査  
結果報告

特定非営利活動法人 産学連携学会  
会長 小野浩幸

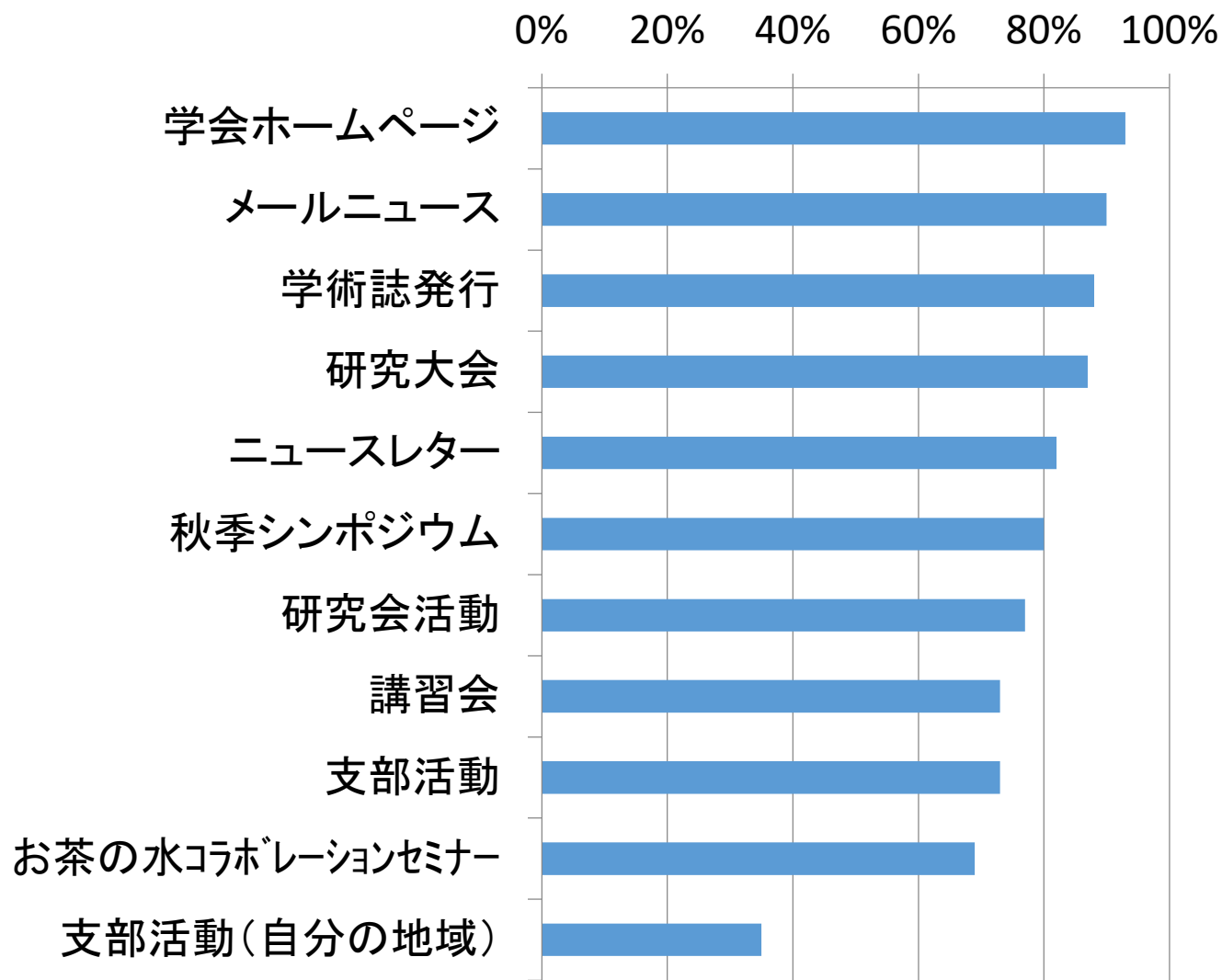
# アンケート回答状況

回答者数84人(平成27年時点の正会員数275人 回答率 約31%)



多くの方に回答いただきました。ありがとうございました。

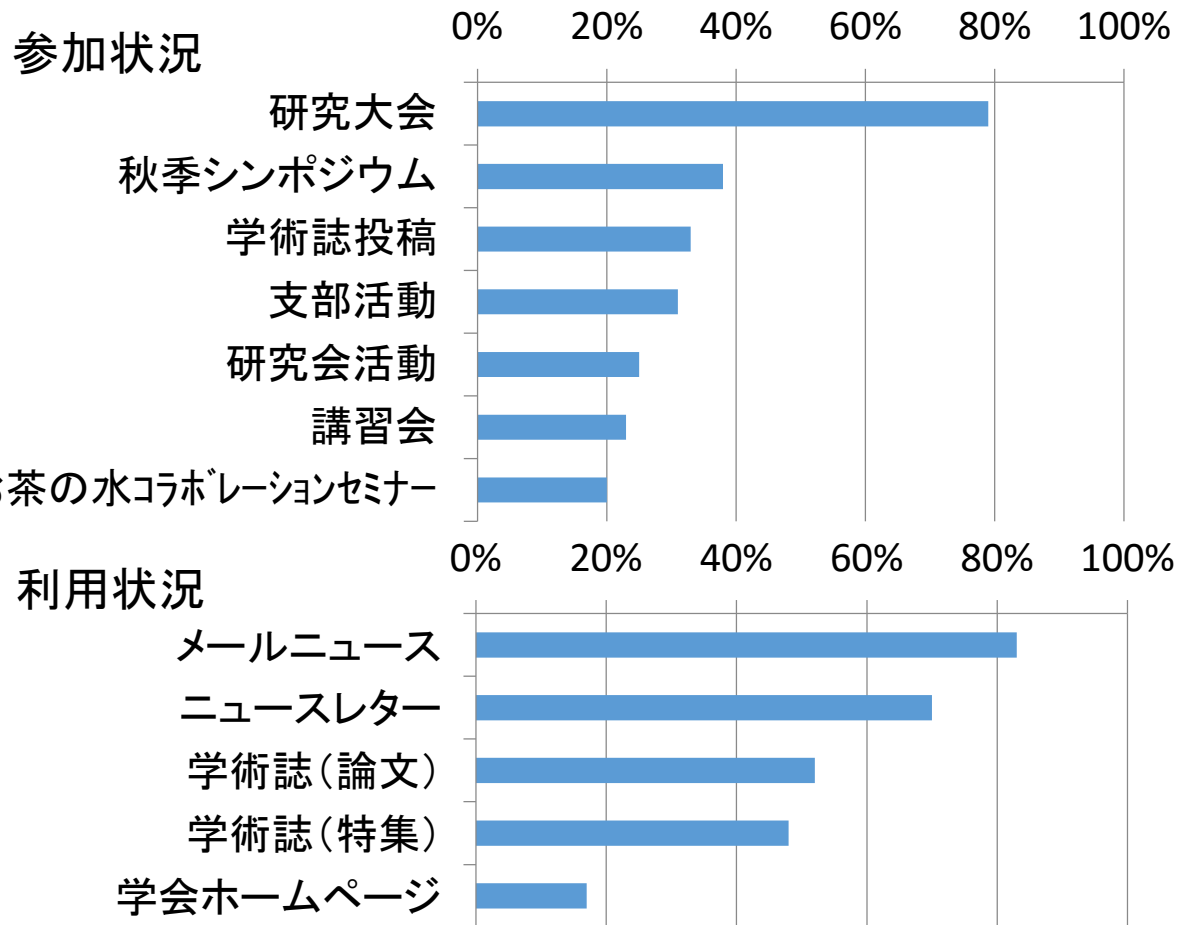
# Q1.学会活動を知っているか(認知度)



学会活動の多くは学会員の皆さんに認知されていることがわかりました。

一方で、もう少し周知を図るべき活動、特に会員それぞれの地域の支部活動の情報をもっと提供する必要があることもわかりました。

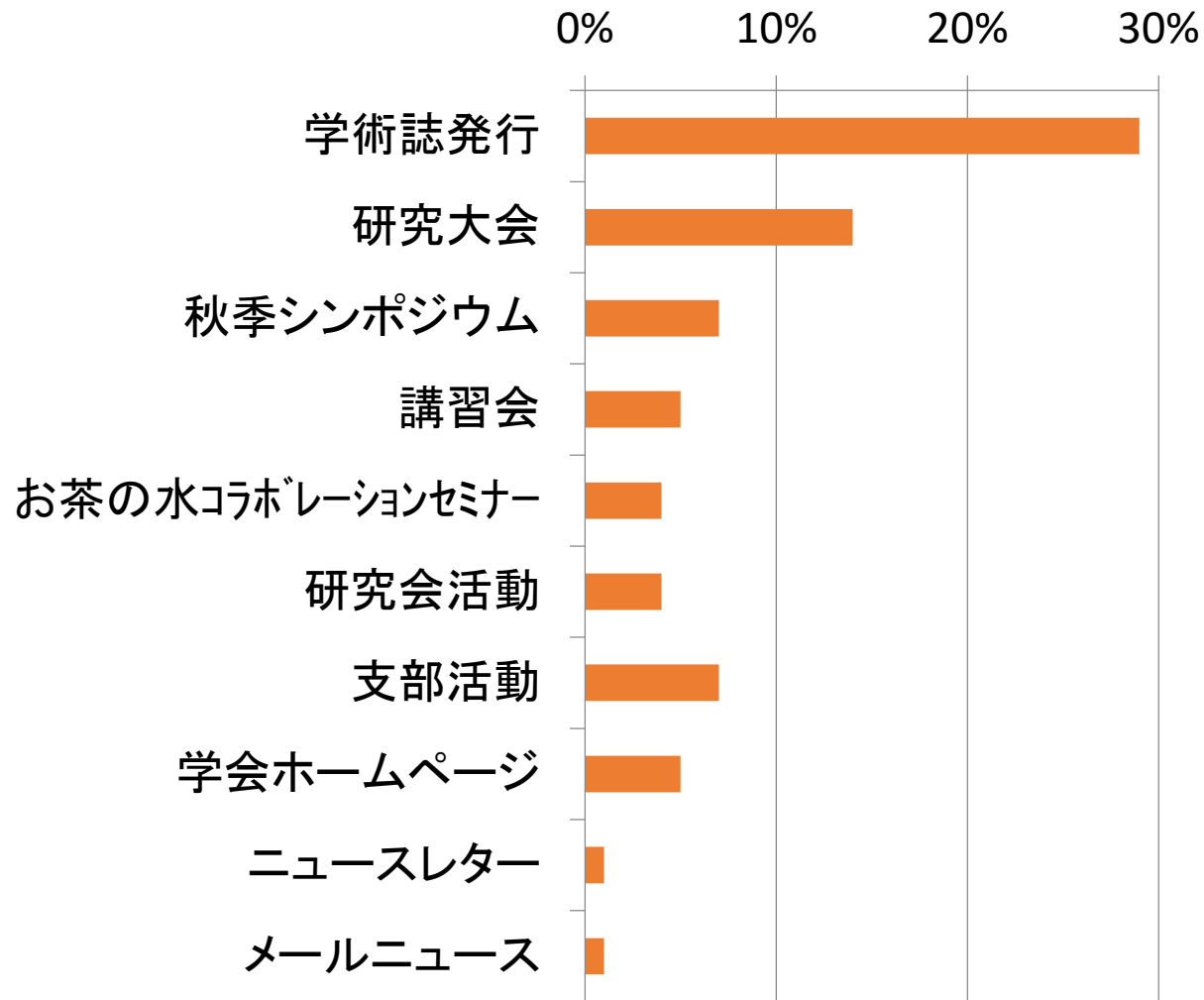
## Q2.活動に参加したことがあるか(参加度) 活動を利用したことがあるか(利用度)



研究大会、メールニュース、ニュースレターについては、非常に高い参加・利用度であることがわかりました。

それ以外の活動については、改善を図ることでさらに参加・利用していただける余地があることがわかりました。

# Q3. 充実・改善をしてほしいことがあるか(改善要望度)

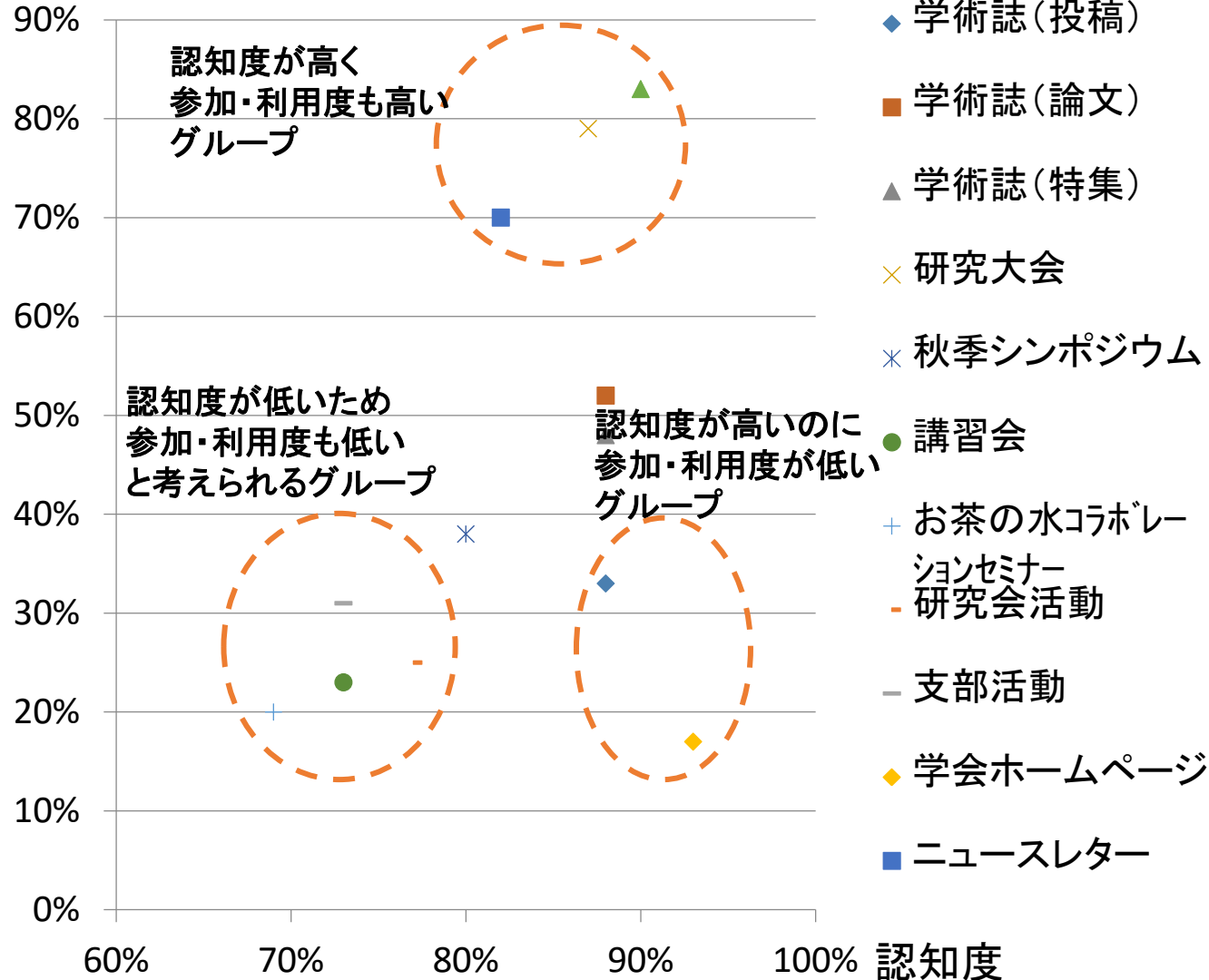


学会誌については多くの改善を求める声があることがわかりました。

研究大会、秋季シンポジウム、支部活動等についても、改善を求める声があることがわかりました。

# 活動別認知度と参加・利用度

参加・利用度



認知度が低いため参加・利用度も低いと考えられる活動があり、広報の方法を改善すべき活動

(お茶の水コラボレーションセミナー、講習会、支部活動、研究会活動など)

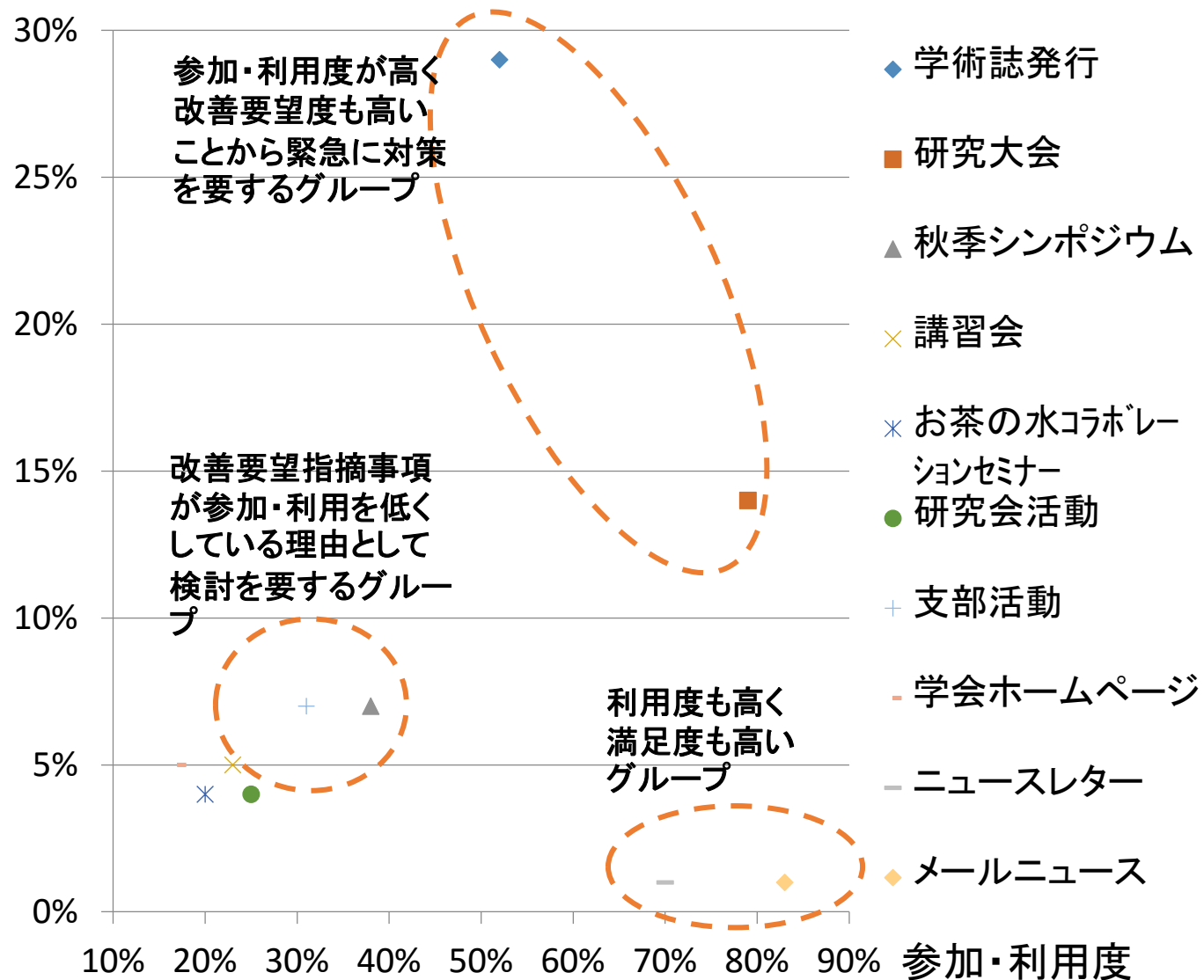
認知度が高いのに参加・利用度が低いことから内容の改善が必要な活動

(学会ホームページ、学術誌投稿など)

があることがわかりました。6

# 活動別参加・利用度と改善要望度

改善要望度



参加・利用度が高く改善要望度も高いことから緊急に対策を要する活動  
(学会誌発行、研究大会)

改善要望指摘事項が参加・利用を低くしている理由として検討を要する活動  
(支部活動、秋季シンポジウムなど)

があることがわかりました。

# 寄せられた具体的改善要望意見

## 1. 学会誌に関して

### (1) 内容・質の向上について

1. 産学連携の実例を取り上げて欲しい
2. 様々な観点からの論文の掲載
3. 現在の定期誌は寄稿や事例紹介などが多く、研究を掲載するというスタンスにはまだ少しとおい。学会全体で指導し、会員が学問領域としての産学連携学が意識できるような形式になってもらえるとさらに高度化されると思われる。
4. 実証分析研究以外にも、理論分野(法学等)の研究についても多く取り上げて頂きたいと思います。
5. 採択される論文は計量的研究と従事経験の基本的整理に重点があり、社会的存在としての産学連携現象を捉えるうえでフレームが狭い。政策論、組織論や歴史学的アプローチに対する許容度を上げる必要がある。委員会のメンバーも交代したようであり、今後の変容を期待している。
6. 掲載論文の質向上
7. 産学官連携に関する社会的地位の方の寄稿の連載などの充実を期待する。
8. 論文や総説、事例などもっと多くを掲載してほしい
9. 我が国産学連携活動のオピニオンリーダーとなる内容を望みます。
10. 本学会はいわゆる特定の学術分野を扱う学会のような体系化が困難である、そのため事例報告などが多くなると思うが、事例報告をその他として扱うのではなく、むしろ価値ある形で認証できるようにすることに努力してはどうか。
11. 特に、いわゆる「文系」と、産業界との連携のあり方についてまだまだ未知の部分があり、そちらの充実を期待
12. 諸外国と比べると産学官連携の内容に大きい開きがあると思います。日本の遅れがはなはだしいとおもいます。その分析を学会でとりあげ、国や企業へのはたらきかけをして、日本の産業の発展に寄与してほしい。



# 1. 学会誌に関して

## (2) 査読・審査について

1. 査読が「つぶしあい」になっている。建設的な議論ができる体制と、適切な査読者への割り振りが重要。
2. 掲載される査読論文が少ない。「審査が厳しすぎるので投稿しない」という声もあると聞きます。
3. 産業界からの参加を促進する観点から、査読水準が厳し過ぎるように感じます。もっとオープンに多様な論文を掲載した方が、様々な意味で効果的かと思えます。

## (3) 公開方法について

1. 一定期間が経過した出版物はwebで公開することを含め、電子ジャーナル的要素も検討してほしい。
2. 広く知見を広めるためWEB公開をしてはどうだろうか？
3. 出張が多いので、ウェブで読める・検索できると大変助かります。

## (4) 研究成果の発表について

1. ニュースレターもしくは学術誌に査読無しの研究事例報告を充実してはどうか
2. この分野での研究活動は学術的分析・考察が難しい(経験・事例の共有がそれぞれの活動上、有用となるもの等)ものもある。例えば、年会講演会での発表内容をいくつか選抜し、それらを後日改めて論文形式で収集し、特別号のような形で学会誌を発行・掲載させる形が年に1回ほどあっても良いように思われる。
3. 不満はないが、研究論文や研究ノート以外に、コラムや意見・提案などを投稿できる機会があればなお良い。
4. 自由投稿が論文や研究ノートに準ずる実績となるように充実してほしい
5. 他学会との連携を強化するのも良いかと思えます。
6. 本学会の研究調査分析結果を産学官の誰もが役立てやすく、わかりやすい形にして公表し、広く社会に貢献したい。

## 2. 研究大会に関して

### (1) 内容・質について

1. 学会としての取り組みについては十分な活動が推進されており特に問題が無いが、学問体系としてもっと高度化してほしい。間口は広く個人研究についても取り上げるべきだが、この先学問体系としての魅力が伸び、経営学を志向する研究者が参画できるような領域の拡張を希望する。
2. セッション分類に、現在業界注目の分野も追加してほしい(発表しにくい)
3. 発表の質向上
4. 産学連携活動に従事する多くの方の情報共有の場として価値のある場と感じている。学術的な発表はもちろんのこと、事例発表的なセッションも取り入れ、情報共有の場としての 最大化および産学連携活動従事の参加拡大を期待する。
5. 学会としての方向性やまとまりを見せられるよう総合討論のようなものを企画してほしい。
6. 事例が多い学会という評価がある。事例を発表するための技法や手法についてのレベルがばらばらであるため、ケーススタディ手法、社会学的調査手法などがあることの浸透・周知があってもよいと考える。
7. 予稿集として残すには些かの工夫を要すると思う。
  - (1) 論文としての質に疑問を感じる案件が散見される。全数を採録するとして、査読してコメントを返しては如何か？
  - (2) 口頭発表内容と予稿がかけ離れている場合がある。募集に当たって、予稿を充実させる様に注意書きを付けては如何か？
8. 地域振興に関わるシンポジウムは第1回大会から行われているが、昨今の内容は「学会」で行う必要があるか多少疑問に思う(地域振興財団か行政が行うような内容)。学会が本来目指す「事例の蓄積から体系化へ」に資する方向を意識してほしい。

## 2. 研究大会に関して

### (2) 開催形態(発表時間・開催場所等)について(長いという人も短いという人も)

1. 今まで1発表15分で行ってきており、これがDefaultになりつつあるが、一方で、12分の発表+3分の質疑では、十分に議論ができないこともある。発表件数を増やすことは大事だが、そろそろ学会も、増やすことよりも、内容を充実させることを考えてもいいのではないか。例えば、件数が少なくなったとしても、Short session: 20分、Regular Session: 30分とすることは一案。
2. 一般演題発表の分科会が多く、聞きたい発表の時間が重複している。10分程度の演題発表とワークショップ等の組み合わせで良いのではないか。
3. クロスディシプリンな学会であるため、前提共有に時間が掛かるし、取り組み一つ一つが短期や小規模というよりは、長期・大規模が多い。そのため、10分程度の報告時間では全く意味がない。長野・下諏訪大会で試みたようなポスター発表形式を重視し、それぞれの取り組みの質を十分に議論し、内容が深まるようなことを考えるべきだろう
4. 関西・中四国支部のような研究事例発表会を年次大会以外でやってはどうか？ 支部で難しい場合、東日本、西日本でもよい

### (3) その他

1. 函館, 佐賀, 高知, 北見の各大会に参加したことがあるが、年々熱気がなくなっているような個人的な感覚を持っています。ローカルな仲良しメンバの会合とまでは言いませんが、今一度「学」セクター以外の参加者を増やすことやその方々の関心・興味を再興できたらよいと感じています。
2. 実際に産学連携が進行している研究と企業・金融機関等との現場を訪れてみたい。
3. 学会としての情報発信の強化として、一定期間が過ぎた内容は、ネット上で公開しては如何か？

### 3. 秋季シンポジウムに関して

#### (1) 開催形態(場所・時期等)について

1. 地方開催を期待します。
2. 二年に1度位は東京近辺の開催が望ましい。
3. 主として東京で行うのであれば、日本の産学連携を牽引するような先を見た内容や国際性を打ち出してほしい。  
東京地方シンポジウムにならないように。
4. 週末利用の機会もあると参加しやすくなります。

#### (2) テーマについて

1. テーマを豊富化する余地がある。
2. 時流やニーズに合ったテーマへの取り組みの継続

#### (3) その他

1. 講演資料は、可能な範囲でネットで事前に公開しては如何か？ 開催報告を事後にテキストで流されても良く分からない。特に、地方との情報格差を解消することを重視してほしい。

## 4. 秋季シンポジウムに関して

### (1) 内容・質について

1. 継続することは重要だがマンネリ化していると感じる。一部の委員で行うのではなく、学会全体で関わってほしい
2. 本題に入る前に会員の自己PR(ショートスピーチ)をする機会を設けてもいいと思います
3. 中小企業との産学連携実績の紹介など

### (2) その他

1. 継続的に開催することは大変だが、重要な活動と思う。企業の発表者が主、という印象があるので、地方の取り組み等の発表機会となると有り難い
2. 今後、時間があえば参加してみたいです
3. 事例講演だけでは物足りない

## 5. 支部活動に関して

### (1) 開催形態(頻度・開催場所等)

1. 各支部はかならず年に1回は活動を義務づけるなどして活性化してほしい。また数年に1回でいいので都内に各支部のコアメンバーがあつまり情報交換をしてはどうか。
2. 支部の大会があった方がよい
3. 研究会の開催場所に苦労することがあると聞く。南関東支部(東京)をつくり、みんなが集まりやすい場所の提供をしてはどうか。
4. 年1回のイベントは適切である。

### (2) 内容

1. 支部活動が地域創成系が多く、実務と関係ないので参加しにくい。また、支部では東北と北関東が一緒にされているが、北関東と東北の産業の集積や形成、大学間連携のネットワークと活動など、状況が大きく異なるため、業務をさいてまで参加する意義がみいだせない。
2. 関西・中四国支部はとても精力的な活動をされている。大会以外に発表の機会があることはとても大事。
3. 支部地域固有の関連課題への取り組み・支部地域でのネットワーク形成

## 6. 研究会に関して

### (1) 内容

1. TR研究会がいつの間にか休止している。今ホットなところとっていたがこのままでは機を逃してしまう
2. 時流やニーズに合ったテーマへの取り組みの継続
3. 事務系職員の業務に関する研究会があれば参加したい

### (2) その他

1. 研究会の設置、運営はなかなか難しい。
2. 各研究会からは、もっと情報発信された方がいいと思います。
3. 研究費の使用範囲・使用方法を明確にしてほしい。

## 7. 学会ホームページに関して

### (1) 内容

1. 更新頻度
2. グローバル化を考え、英語サイトを充実してはどうか。
3. 産学連携に関する分野別にとりまとめるような分け方と、HPのトップにボタン式でそれらを選べるような形になっていると面白いというか、見たくなる気がしました。
4. デザインのリニューアル。過去の記事をもっと検索しやすくしてはいかがでしょうか。

## 8. ニュースレター発行に関して

### (1) 内容について

1. 学術誌との性格をしっかりと区別した情報の提供、配信を期待する。

## 9. メールニュースに関して

### (1) 体裁について

1. 1通のメールニュースのテキスト量が多い傾向がある。より多くの人に見てもらえるよう学会HPとのリンク(例えば、リンク先にポスターや申込サイトが同ページに存在するなど、メールニュース自体は内容を簡略化する



# 10. その他

## (1) 学会の方向性・ミッション等について

1. 実務的なセッション等は非常に参考にはなるが、学会ならばもう少し学術的な色を付けていただきたい。
2. 学会としての位置づけを今後高度化していくために、魅力ある学会として会員募集を進められればと思っております。引き続き積極的な参画をしていきますので、ご指導よろしくお願い申し上げます。
3. 産学連携活動に従事する多くの方の情報共有の場として価値のある場と感じている。大学 機関をはじめとする産学官連携関係部署への学会の認知度向上に向けた活動、例えば、ニュースレターを定期的に各関係部署に送付する、HPの充実など基盤強化も発展的に必要であると感じる。
4. 産学(官)連携に関して忌憚のない意見を簡単に交わせるような場が必要ではないか。SNSの活用も若い年代には効果があると思われる。理事会や一部の活動的な会員の意見が、学会のスタンダードとなるように感じることもある。産学(官)連携はお互いの立場、個々の会員の意見を尊重してこそ成り立つ。
5. 原点回帰を考えるなら産学連携草創期の熱気、海外での継続的な成功事例の分析を踏まえ、現在の我が国の産学連携を見つめなおすことが必要であろう。知財主義、迷走するURA、大学の財務、意味もなく変わる府省の方針を超えて。会員増加を言う前に、この学会が何を目指すのか明確にすることが必要と思われる。それ無くして学会に対する共感は得られない。
6. やはり科学研究費の分野になるようにして欲しい。
7. 産学連携学と現実の連携成果とのリンクがイメージしにくい。その整流化が学問的レベルでも進化していくことを期待したいと思っています。

## 10. その他

### (1) 学会の方向性・ミッション等について(つづき)

8. 本学会に参加して10年足らずになるが、人脈形成としては有用であった。一方で、学会としては、もう一段の産学連携活動の活性化への貢献の必要性を感じる。①人材育成の視点が重要。企業出身のベテランはさておき、若い人の育成やキャリア形成支援は急務。研修、若手向けで、研究会活動、資格認定等々の一層の充実を期待する。②昨今の政策で感じるのは、大規模産学連携(旧帝大／大企業)の産学連携は応援団も付き推進されている。問題は地方創生への地方大学の産学連携面での貢献。ここに特化した活動が期待されているのではなかろうか。また、他学会との比較(特徴、産/官/学の何志向、学術/政策提言/影響力、)の上で何を目指すのか? 短文にて、説明しきれないが、悪しからず。
9. 「産学連携学」が依拠する学術分野は何か、そういったことを真剣に議論すべき時期に来ているのでは。

### (2) 他学会との連携について

1. 知財学会など他学会との連携や交流イベントなどを企画してもいいのではないかと思います。
2. 他学会との連携、海外での活動。両者の場合とも、現状の産学連携学会から提供できるのは豊富な事例情報だと思われるが、それらを分析対象とする他学会との連携や海外での国内事例紹介などは本学会のプレゼンスを高めると思料する

## 10. その他

### (3) 会員の属性について

1. 学生会員が少ないので、全国大会に会員でない学生にも参加資格を与えて、参加者に入会を勧めては？
2. 事務系職員の会員は殆んどいないようですが、従事者数は多いので、勧誘の余地があると思います。但し、現状では、事務系職員が入会しても得るものが少なく、勧誘と共に、事務系職員が参画できる活動を活発化させる必要があると考えます。
3. 社会科学系の学会としての質を向上させるため、もうすこしアカデミック会員（産学連携コーディネータではなく純粋な研究者）の参加を促してはどうか。
4. 産学連携学会の中身が、殆んど学中心になっており、産側の情報が少ないことは産学連携学会における根本的な問題だと感ずる。具体案はもたないが、産業側会員を増やさねばこれ以上の発展は難しいのでは。
5. 全国におられるコーディネーターやURAに学会に参加しているメリットを具体的に示す必要があります。そのためには、各支部にコーディネーター部会やURA部会を作ったら如何でしょうか？ まず、懇親会などの情報交換会から始めれば良いのではないのでしょうか。

### (4) 内容・取り上げるテーマ等について

1. 大学や科学技術（産業）振興に係る国・地域公的団体に、非常に多くの連携関係職員やコーディネータ、プロデューサ、アドバイザーなどがある。これらの方々の役割と費用対効果に関する総論的評価を、学会として実施して頂きたい。
2. 学会として企業のコンサルタント業務を行い、学会に関わることのメリットを感じていただくことが大切だと思います。有償（成功報酬型、契約型等）か無償かは検討が必要。
3. 新しい材料開発して、起業している会社などは、意識していなくても大学とつながっている例がたくさんある。成功例を年次大会などで特集して学会の宣伝に使えば如何でしょうか例：山形県のSpiber（株）等。
4. お金の部分を含めて、起業をアックアップする部署を充実させてほしい。

多くの貴重なご意見をいただきありがとうございました。

今後の学会活動に活かしてまいりたいと思います。